

皆様、日々の診療や勉強お疲れ様です。

6月後半から長雨が続いたかと思えば、突然夏日になるなど、気候に右往左往している毎日ですが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。小児科病棟はほぼ満床の日が続いています。7月後半からは、子ども達が夏休みを迎え、検査や手術などのための外来受診や入院が増え、更に忙しくなります。皆様、体調を崩さないよう、この時期を乗り切ってください。

さて、この小児科通信では、医局の行事、医局員の先生方の学会参加予定に加え、毎月医局員の先生お一人ずつから若い先生方へメッセージを掲載していきます。どうぞ気軽な気持ちで目を通してください。

～6、7月の医局行事～

6月8日 第525回福岡地方会

村川先生、重田先生、JCHO九州病院からは清水先生が発表し、高橋先生が座長を務められました。活発な質疑応答もあり、充実した地方会でした。



楠原前教授とも
お会いすることができました！

6月10日 産業医科大学小児科セミナー

新生児班の菅先生、川瀬先生、眞鍋先生から「新生児の終末期医療におけるコミュニケーションとナビゲーション」について解説していただきました。

6月11日 小児科に入局された学生さんへの説明会・懇親会

小児科に入局された医学部6年生への説明会・懇親会が開催されました。なんと、今年度は13人も 학생들이入局を表明してくれました！一緒に子ども達のために、頑張っていきましょう！



とてもにぎやかな、良い会でした！
誰が学生さんで、誰が医者かわからないですね…。
まだまだ、我々も若いです！

6月27日 産業医科大学小児科セミナー

内分泌・代謝班の斎藤先生、桑村先生、池上先生から「日常診療に潜む骨系統疾患」について病歴聴取や身体所見の取り方、虐待との鑑別の仕方などを中心に説明していただきました。

7月3日 川村 卓先生の学位審査

アレルギー・感染症班の川村 卓先生が、「細菌の16S rRNA 遺伝子配列に基づくクローンライブラリー法を用いた神経筋疾患患者の下気道感染症に対する抗菌療法の至適期間」をテーマに学位審査に臨みました。

以下、川村先生からのコメントです。

7月3日、無事学位審査会を終えることができました。右も左もわからないまま実験を教えてください、論文作成を行い、その後何度も学会等で発表を行った研究ではありましたが、実際の審査会となるとさらに質問の密度が濃く、大変勉強になりました。主査副査の先生方からの質問によって多角的にとらえることで、見え方が違ってくる部分もありました。共著者の先生方、実験を指導していただいた先生方、また当日までサポートしていただいたたくさんの方々へ深謝いたします。終わってみて、大変でしたが、研究ってやっぱり面白いなと再確認できる機会をいただけて本当に良かったです。ありがとうございました。

お疲れ様でした！！

～7月・8月の医局内イベント

7月8日 18時～ 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス ★現地参加のみ
担当：事務部 題名：小児加算などの講義

7月25日 18時～ 産業医科大学小児科セミナー
担当：血液腫瘍班 題名：好中球減少症について（仮）

*8月は夏休みのため、クリニカルカンファレンスとセミナーはお休みです。

★セミナーはZoom参加出来ます。参加してみたい方は、桑村（maeguchi06@med.uoeh-u.ac.jp）または守田（h-rita@med.uoeh-u.ac.jp）までご連絡ください。

～7・8月開催予定の学会～

7/20-21 第25回 日本検査血液学会 広島市 ○発表者：白山理恵

～日本小児科学科からのお知らせ～

小児科を目指す医学生・研修医向けに「ようこそ小児科へ」がリニューアルしました。

小児科の紹介、多様な働き方をしている小児科医の先生方からの寄稿をまとめた冊子で、

https://www.jpeds.or.jp/modules/general/index.php?content_id=1

からご確認いただけます。ぜひご覧になっていただき、今後の小児科医生活を想像してみてください。



～医局員からのメッセージ～

九州小児科学会（九州小児科野球大会）：絆と勢いを育む一大イベント

NICU 医長の菅秀太郎です。

NICU の症例や話題について書こうと思いましたが、今年から執筆内容の制限が解除されたこともあり、ここでは「九州小児科学会・野球大会」について紹介したいと思います。これまで大会の様子や写真が掲載されることなく、同門会での口頭報告ばかりでした。今回の小児科通信では、この大会を伝えずにはいられません。

九州小児科野球大会の重要性は、実際に参加しないと分からないと思いますが、私が特に重要だと感じる点を二つ述べます。

まず一つ目は、大会の成績が医局の勢いを表しているという点です。優勝常連の九州大学や久留米大学は、医局員の数が多く、大会参加者も非常に多いです。ベンチの盛り上がりも凄まじく、その勢いが臨床や研究にも反映されています。

二つ目は、野球を通じて一体感が生まれ、日常診療でのチームワークにも役立つことです。昨年は、研究医時代の宮地先生（現在は大学小児科勤務）が参加し、野球大会で初めて会いました。彼はバリバリのサッカー経験者で、野球は初心者とのことでした。しかし、声出しやフライボール捕球など非凡な才能を見せ、野球経験の有無とは関係ない全カプレーで直ぐに信頼を勝ち得ました。

我々、産業医大小児科野球チームは昨年、難敵でライバル視している九州大学にサヨナラ負けし、熊本大学には完勝しましたが、惜しくも得失点差で決勝トーナメントには進めませんでした。今年も産業医期間中の平川先生が主将を務めてくれるので、今から楽しみです。しかし、毎年のように試合前日のみの練習だったりするので、今年こそはしっかり練習して本番に臨み、深野教授に勝利を届けたいと思います。

ちなみに、学術集会も野球大会後に開催され（こちらが本番？）、昨年は大分大学の先生が野球大会で骨折してしまい、発表は代打で他の先生が行っていました。事故なく勤務に戻ることも大事な任務だと痛感しました。

このように、九州小児科野球大会は医局の勢いと一体感を感じることができる貴重な機会です。ちなみに、女性は最初から最後まで試合参加で+1点のルールであり、女性医師の参加も大歓迎です。



恒例の決起会。長崎市内の居酒屋で作戦会議という名の飲み会です。



Sylvester Stallone に似ていると言われる「森先生」は、関東で産業医としてご活躍されています。毎年、野球大会には助っ人としてご参加いただいています。



試合前のやや緊張した、小児科医局員たち

小児科通信に関してご意見や感想があれば桑村
(maeguchi06@med.uoeh-u.ac.jp) または守田
(h-rita@med.uoeh-u.ac.jp) までご連絡ください。

～次号もお楽しみに～